北海道科学大学研究紀要
第46号（平成30年）
教育実践報告

Bulletin of Hokkaido University
of Science, No.46(2018)
Educational Practice Reports

メディアデザイン学科生によるラジオ番組制作

Radio Program Production by Students of the Department of Media Arts and Design

小松隆行*

Takayuki Komatsu

概要

本学メディアデザイン学科では，コミュニケーション能力を高めて実践に応用する教育方針の一環として，実際のラジオ番組のコンテンツを企画し制作する課外の教育実践を行っているが，その教育の内容，方法，そして実践について報告する．制作過程では，学生が主体となって企画からシナリオ作り，およびトークを行い，教員はそのサポートやアドバイスを行うことにより教育効果を得られるようにしている．本報告では，これらの内容を報告し，様々な効果についても述べる．

1. はじめに

本学未来デザイン学部メディアデザイン学科[(1)]では，デザイン，コミュニケーション，ソフトウェアの３分野を総合的に修得することで，IT を基幹技術とするコンテンツデザイナーを育成することが学科の基本姿勢であり[(2)]，単にデジタルコンテンツを制作できることに留まらず，受け手にどのように伝わるかを考え発信できるコミュニケーション能力を養う．専門教育科目では，「デザイン系」，「コミュニケーション系」，「ソフトウェア系」の 3 分野の科目が開講されており，「コミュニケーション系」の科目としては，例えば 1 年前期の必修科目「コミュニケーション演習」がある[(3)]．そのようなコミュニケーション能力育成教育の一環として，課外での学生主体のラジオ放送のコンテンツ制作活動を行ってきた．これは学生が放送内容を企画制作して自らトークし，収録したものを実際のＦＭ放送でオンエアーをするものである．本報告では，その内容と方法について述べる．

2. 番組制作の内容と方法

ラジオで放送されるのは 15 分から 20 分程度の学生のトークのコーナーであるが，本節では放送局と番組について，およびこのコーナーの制作の流れに従って説明する．

2.1 コミュニティＦＭ放送局と番組について

三角山放送局（札幌市西区）[(4)]は，札幌のコミュニティＦＭラジオ放送局（76.2MHz）であり，地域のための情報提供を中心として，さまざまな地域のためのイベントを企画運営したり，地域情報誌「マガジン 762」を発行したりしている．ピンクリボン運動[(5)]の推進にも協力している．この放送局は，1993（平成 3）年に設立され，これまでに「平成 23 年度バリアフリー・ユニバーサルデザイン推進功労者表彰」の「内閣府特命担当大臣表彰優良賞」や，北海道コミュニティ放送賞番組部門で最優秀賞などを受賞しているコミュニティＦＭを代表する放送局である．「いっしょに，ね！」の精神で，開局時から誰もが思いを伝えることができる，障がい者も女性も子供も，社会的弱者が自分の思いをはっきり伝えることができるラジオであることを理念としている．幅広い年代のアマチュアのボランティアパーソナリティが多いことや，社会的弱者の方たちに焦点を当てた番組，あるいは番組作りも特徴である．一方で，日本ハムファイターズのコーチやコンサドーレ札幌の選手が定期的に出演する番組なども手掛け，全国的にも固定リスナーが多くいる．

この放送局で毎週金曜日の午後 3 時から 5 時までの 2 時間番組「フライデー・スピーカーズ」の中で，学生の企画制作したコーナーが 15 分から 20 分ほどオンエアーされる．番組自体は，生放送であるが，学生のコーナーが収録された音源を CD に収め，それを流す形式にしている．この番組のテーマは，「文化を通じて地域をリミックスする」であり，その内容は大学教授や放送局社長など数名が週交替でパーソナリティを担当し，それぞれ自由に番組内容を

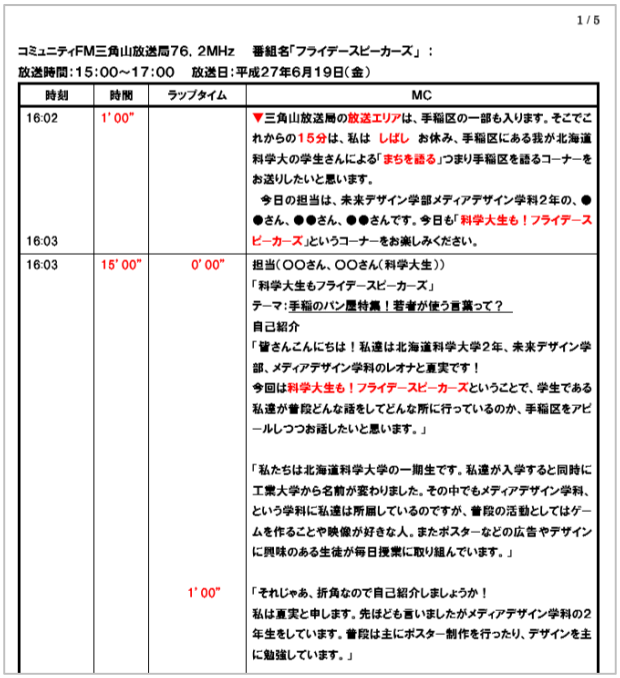
＊北海道科学大学未来デザイン学部メディアデザイン学科

企画して制作し出演してトークするものである．本報告の著者は，2015 年 4 月からパーソナリティを担当（当初隔月で，2016 年からは毎月第 3 金曜日）している．著者の番組内容のテーマは，「コミュニティと音楽」「日常生活の中での情報工学」「最新の人工知能技術の解説」「コンピュータサイエンスの最新ニュース解説」「科学的徒然話」などであり，様々な分野で活躍する札幌の著名人や本学教員をゲストに招いて対談なども行ってきた[(6) (7) (8)]．これまでに，著者の担当回のオンエアーは 31 回放送（2018 年 3 月現在）されている．著者の担当する回（第 3 金曜日）の生放送の中で学生コーナー「科学大生もフライデー・スピーカーズ！」が放送される．

2.2 学生による番組内容の企画

学生のコーナーは，基本的に学生が内容を企画して制作し，自らトークをする形式で作られる．担当する学生は，メディアデザイン学科生であれば誰でも担当させている．主に普段から行動や活動を供にしている学生 2～3 名程度である．1 名のこともある．著者は，メディアデザイン学科 1 年生前期の必修科目「コミュニケーション演習」を担当しており，学生全員の顔と名前，およびそれぞれの会話やコミュニケーションの能力を把握している．その知見を活かして，番組制作ができそうな学生，やりたがっていそうな学生，などを指名したり，この授業の中で履修者全員に参加を呼び掛けたりして選抜している．

学生にはまず，内容のテーマを考えさせる．次に大まかな内容を考えさせる．調査や取材，出演依頼などの必要行動の項目も列挙させ，必要があればスケジュール表も作成させる．次に標準的なタイムテーブルシートを使って，シナリオを作成させる．これには，ラップタイム，所要時間，定型的なセリフやトーク内容の概要と流れを記入させる．メディアデザイン学科で開講されている科目「映像デザインⅠ/Ⅱ」でも，映像番組制作の演習において，同様のシートを用いて映像番組制作の教育をしているので，その実践ともなっている．以下の図 1 は，学生が制作したシナリオシートである．「手稲のパン屋さん特集＆若者が使う言葉」をテーマとした回のものである．施設や人物が取材対象となる場合は，正式な取材依頼をして許諾してもらう対応は教員が行うこともある．



1 / 5

コミュニティFM三角山放送局76．2MHz　番組名「フライデースピーカーズ」：
放送時間：15:00～17:00　放送日：平成27年6月19日（金）

時刻	時間	ラップタイム	MC
16:02 16:03	1' 00"		▼三角山放送局の放送エリアは、手稲区の一部も入ります。そこでこれからの15分は、私は しばし お休み、手稲区にある我が北海道科学大の学生さんによる「まちを語る」つまり手稲区を語るコーナーをお送りしたいと思います。 今日の担当は、未来デザイン学部メディアデザイン学科2年の、●●さん、●●さん、●●さんです。今日も「科学大生も！フライデースピーカーズ」というコーナーをお楽しみください。
16:03	15' 00"	0' 00"	担当（〇〇さん、〇〇さん（科学大生）） 「科学大生もフライデースピーカーズ」 テーマ：手稲のパン屋特集！若者が使う言葉って？ 自己紹介 「皆さんこんにちは！私達は北海道科学大学2年、未来デザイン学部、メディアデザイン学科のレオナと直実です！ 今回は科学大生も！フライデースピーカーズということで、学生である私達が普段どんな話をしてどんな所に行っているのか、手稲区をアピールしつつお話したいと思います。」 「私たちは北海道科学大学の一期生です。私達が入学すると同時に工業大学から名前が変わりました。その中でもメディアデザイン学科、という学科に私達は所属しているのですが、普段の活動としてはゲームを作ることや映像が好きな人。またポスターなどの広告やデザインに興味のある生徒が毎日授業に取り組んでいます。」
		1' 00"	「それじゃあ、折角なので自己紹介しましょうか！ 私は直実と申します。先ほども言いましたがメディアデザイン学科の2年生をしています。普段は主にポスター制作を行ったり、デザインを主に勉強しています。」

図 1 学生が作成したシナリオシートの例

2.3 制作（音声収録と編集）

次に，シナリオシートに従って，学生に実際にトークしてもらって音声収録し、その後に録音データの編集（ポストプロダクション）を行う．

まず音声収録であるが，メディアデザイン学科が主に使用しているメディアスタジオ（2016 年度までは 4310 教室，2017 年度からは E 棟（中央棟）に新設された E301 教室[(10)]（図 2））で行ってきた．放送用の音声品質を確保するための使用機材として，Apple 社製 MacBook Pro（OSX10.8．5），ダイナミックマイクとして Shure 社製 SM-58 を 2 本（両端が HLR 型コネクター（キャノンコネクター）のマイクケーブルで接続），オーディオインタフェースとして Roland 社製 EDIROL UA-25EX（24-bit USB Audio Capture），および Sony 社製ヘッドホン MDR-CD900ST を使用している．ソフトウェアは，収録用として音楽制作用の DAW ソフトウェアの Steinberg 社製 Cubase6 を使用し，ノイズ除去用として Roland 社製の R-MIX を使用する．オーディオインタフェースのチャンネルが 2 系統しかないので，トーク者数が 3 名を超える場合は，マイクを複数名で共有する必要があるので，収録時の話者に対するマイク位置調整を入念に行い，1 チャンネル内での録音レベルのバランス調整なども行う．メディアスタジオは録音を目的として作られていないので，雑音が乗るため収録後に R-MIX でノイズ除去をすることもある．

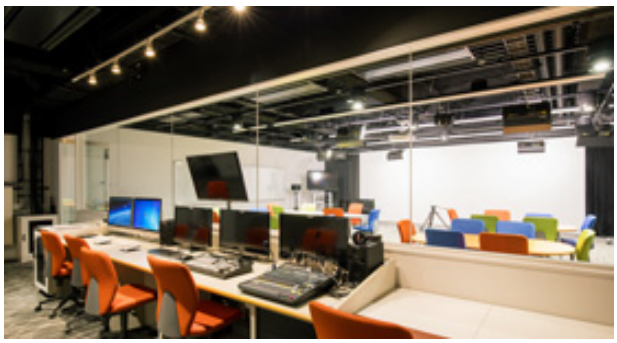


図 2 メディアスタジオ（(10)より引用）

本番の収録前には，録音のための音量レベル設定を兼ねたウォーミングアップのための 2～3 分のフリートークを行う．2.2 の図 1 で紹介したシナリオシートに従った練習を兼ねた全編のリハーサルを行うこともある．学生コーナーは，間に CM をはさむことなく全編連続でオンエアーされるが，収録では 2～3 パートに分割して収録することもある．学生の緊張度が高いときは，フリートークとリハーサルでそれが下がり，自然なトークになるまで続けた後に本番収録を始める．収録の前後や途中において，話のトピックス選択や構成，話し方，声の出し方，間の取り方，放送での効果的な話し方，言葉遣いなどのポイントを教員が随時指導しながら、かつ録音したものをすぐに一部プレイバックして学生に聴かせて確認しながら制作している．プレイバックには仮の BGM を別トラックに入れ，オンエアーの雰囲気も確認する．

収録された録音データは，Cubase 上で著者が編集する（図 3）．内容としては，不要個所のカット，音量レベルを調整したり，イコライジング（低音域カットと言葉の発音を明瞭にする高音域強調など）したりする，音圧を上げるマスタリングや，トーク内容や学生の声質にマッチしたBGM トラックの作成などである．BGM としては，学生のトークを邪魔しないようなものを選曲している．例えば，女子学生の声の場合は，英語で歌われている男性ボーカル曲など周波数帯が異なるものを選んだり，トークの内容が日常生活の楽しい話題であればロックやポップ曲を，詩や短歌の朗読など落ち着いた内容であればクラシック音楽のピアノ曲などを選んだりしている．コーナーの時間は 15 分から 20 分なので，楽曲を数曲使用するが，オープニングとエンディングに留意したり曲の順番や構成もリスナーが飽きないように変化をつけたりするようにしている．金曜夕方頃のオンエアーということも留意している．最終的にフェードイン・フェードアウトなどの微調整をして完成させたものを CD に WAV 形式で記録する．

図 3 編集（ポストプロダクション）作業画面

2.4 放送（オンエアー）

番組は午後 3 時から 5 時までの 2 時間の生放送であるが，学生コーナーのオンエアー時刻は，概ね午後 4 時頃としている．学生コーナーが番組構成において効果的となるように丁度真ん中（放送開始後、約 1 時間経過した時点）に位置するようにすることと，学生がオンエアー放送を聴けるように大学の 4 講目が終了する頃という意図もある．番組は，インターネット放送[11]やスマートフォンでもアプリケーション(リスラジ)[12]を使って聴くことができる．また，深夜（午前 2 時から 4 時）に再放送もされている．実際にオンエアーされたコーナーの録音（エアチェック）を CD に収録して，コーナーを制作した学生に後日提供して，オンエアーされた番組の完成形を聴いて確認してもらい、反省などを含めた振り返りをするように指導している．

3. これまでの放送実績

これまでに担当した学生は，メディアデザイン学科生やその学生が所属するサークル団体のメンバーで，2015 年から 2018 年までで延べ人数は 43 人である．放送の回毎に，1 名から 3 名程度のメディアデザイン学科生を選び担当させているが，メディアデザイン学科生が所属しているサークル団体として，他の学科生も一緒に出演することもある．トーク内容のテーマとしては，「手稲の良さと若者スポット紹介」，「自分の故郷紹介」，「手稲の美味しいお店紹介と食レポ」，「北海道科学大学の紹介」，「科学大学の新食堂の紹介と食レポ」，「科学大の図書館紹介」，「若者言葉と若者に今流行っていること」，「お勧めの人気漫画やアニメの紹介」，「自作の詩や短歌

紹介とエッセイ」,「就職活動について」,「YOSAKOIソーラン部の活動」,「リュージュ部の活動と部員勧誘」,「美術部の活動と絵の描くこと」などである.

4. 実践の効果

まず，教育的な効果について述べる．担当した学生は，どの学生も「楽しかった」「気持ちよかった」「いい経験ができた」「もっと話したい」「また担当したい」という肯定的な感想を述べている．何度も担当している学生は，就職活動の面接でもこのラジオコーナー担当の経験を自己ＰＲとして答えて，好印象を与えることができたとのことである．言葉遣いの注意と矯正や，フォーマルな話し方,および話の構成の仕方の実践としてよい機会となっていると考えられる．インターネット放送により,学生自身は勿論,友人や遠隔地の家族や友人にも学生の声と話しを聴かせることができ,故郷の両親に喜ばれたという声もあった．話のトピックス選択や構成,話し方，声の出し方，間の取り方，放送での効果的な話し方，言葉遣いなどのポイントを収録前後において教員が指導しつつ制作していることで，効果的なコミュニケーションのためのエッセンスを実践の場で確認しながら修得でき,向上させることができていると考えられる.

次に，放送局やリスナーへの効果について述べる.三角山放送局のパーソナリティは，ボランティアを含めて年齢層が高いこともあり,20 歳前後の学生の若い声は非常に貴重で新鮮であり,「新風を起こした」という評価があるほどに好評である．その評価は変わらず,2015 年度にこのコーナーが始まってから現在まで継続している．その後，この放送局では他大学の学生による１時間番組も開始された．学生へのコーナーへのリスナーからのコメント（お便りメール）が届くこともある．その他に，教員である著者との自由な対談トークをオンエアーしたこともあり,大学教員とゼミ学生の良好な関係を生き生きと伝えることができ好評を博した.

5. まとめと今後の展望

本学メディアデザイン学科における，ラジオ番組のコンテンツを企画し制作する課外の教育実践について報告した．学生のコミュニケーション能力を高め，実際にオンエアーされることにより自身が達成感を得て実績となり，社会的な貢献という意味でも意義ある活動である．今後は，身近な日常での話題だけでなく，若者が考える問題やテーマに関わるディスカッションや意見交換などの意識を高めた内容のものを制作することや，エアチェックの振り返りを参加者や第三者で行うことで改善ポイントを見出してより良い内容にしてゆくことや，これらにより学生にとってさらに意味のある活動にしてゆくことが必要であると考えられる．数回放送された本学の教員や研究内容，社会貢献などの紹介を、学生主体で今後も企画し制作してゆくことも有効であると考えられる.

参考文献

(1) 北海道科学大学メディアデザイン学科：http://navi.hus.ac.jp/system/mirai/media/.

(2) メディアデザイン学科基本姿勢：http://navi.hus.ac.jp/upload/files/pdf/system/2014/newdep/mi_media_kihon.pdf.

(3) メディアデザイン学科シラバスコミュニケーション演習：http://navi.hus.ac.jp/upload/files/pdf/system/2014/newdep2014/media/510A51501-0.pdf.

(4) コミュニティＦＭラジオ三角山放送局：http://www.sankakuyama.co.jp/.

(5) ピンクリボン in SAPPORO：http://pinkribbonsapporo.web.fc2.com/.

(6) 北海道科学大学ニューストピックス：http://www.hus.ac.jp/hit_topics/2016/09/201609141853.html.

(7) 北海道科学大学ニューストピックス：http://www.hus.ac.jp/hit_topics/2017/02/201702152049.html.

(8) 北海道科学大学ニューストピックス：http://www.hus.ac.jp/hit_topics/2017/01/201701192023.html.

(9) メディアデザイン学科における「コミュニケーション演習」の教育内容及び方法と実践：北海道科学大学研究紀要，第 43 号（平成 29 年）,pp.59-62.

(10) 北海道科学大学施設紹介一覧中央棟(E 棟)施設紹介マルチメディア・ラボとメディアスタジオ,http://www.hus.ac.jp/info/facility/facilities_12.html.

(11) CSRA(Community Simul Radio Alliance)：http://csra.fm/blog/author/sankakuyama/.

(12) ListenRadio：http://listenradio.jp/.